『「礼拝」って何？』（創世記 1:26-27、ルカ 10:38-42）2021.5.30.　（M.M.M.）

＜はじめに＞昨年６月２日に王子教会の牧師館に引っ越してちょうど丸1年、コロナ禍中の着任となり、お互いにとって異例のスタートでした。ネガティブな状況での制限のある礼拝、教会活動が 1 年以上たった今も余儀なくされています。そして、この状況は何時まで続くのか見当もつきません。今朝は王子教会での初めての礼拝メッセージ、「礼拝」とは何か？を共に御言葉に聞きましょう。

Ⅰ．礼拝の本質=神様との「関係」(創世記 1:26-27)

１．人間の創造(26)

神は仰せられた。『さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう』

２．創造主は「われわれ」(26)

ヘブル語「エロヒム」複数形、伝道者の書「あなたの創造者」=ボレイカ=創造者たち

「われわれ」=父なる神・子なる神である主イエスキリスト・聖霊なる神

完璧な関係、麗しい交わり、完全な一致があった。「三位一体」

３．神のかたち、神に似せて(27)

27 節には「(神が)創造される」が3回も繰り返されている。

かたち、似せて＝神様にはボディとしての形はない。霊的な存在、いのち

「エロヒムの神」の間にあった完璧な関係を人と持ちたいと願われた。

私たちは、神様が持っておられる霊的な性質=「愛」と「聖さ」=を頂いた。

Ⅱ．礼拝のありかた（ルカ 10:38-42）

１．マリヤの礼拝(39)

「主の足元」:理想の礼拝の姿、主も喜び、推奨している。

主の顔を慕い仰ぎ見、主の声を聴く。他の者、声は見えない、聞こえない。

マリヤの礼拝のあり方は、理想的であり、模範的、それは本当に素晴らしいし、

イエスご自身がおっしゃる通り「ただ 1 つの必要なこと、良い方」

２．マルタの礼拝（38、40）

一般的にマルタの言動は「ダメな例」として取り上げられる。

「イエスを迎え入れた」(38)「いろいろなもてなしのために心が落ち着かず」(40)

行動でイエス様への愛を表す。それがマルタなりの礼拝のあり方だった。

ギリシャ語での「礼拝」は「公共奉仕」という意味の言葉が使われている。

３．私たちの礼拝

このコロナ禍で家庭での礼拝では専念し、集中するには戦いがある。

＜終りに＞

- 『礼拝』は、「主の招きに応じて」「主の体であり、主にある共同体の家としての教会」に、それぞれの「生活から時と場所を聖別して集まり」「礼拝を受けるにふさわしい主」に「霊とまことをもって」「主にある家族と共に」「主への賞賛と賛美を捧げる」こと
- 神によって霊的な存在として造られ、御子イエス様によって救われ、聖霊によって主を賛美し、礼拝するものとされた者にとっての喜び、祝福
- そして、それを共同体として主にある家族と共に礼拝を捧げ、御言葉と祝福を受け取り、共に分かち合える事は最高の喜び、祝福
- しかし、今は共同体として同じ場所で礼拝を捧げることが困難な時
- マルタとマリヤの礼拝は彼女たちの家。そこにマルタはイエス様を喜び勇んでお迎えし、マリヤは自分の家にイエス様のために場所を整え、その最前列、主の足元に座った。
- 私たちも、家庭においての礼拝にマルタのように主を歓迎し、マリヤのように主の足元に座り、その御言葉に霊をもって聞き入り、主の臨在を感じ、主との豊かな交わりをの中にある祝福を、それぞれの場所で、共に味わっていきましょう！